

平成30年度 アドバイザー派遣事業 実施レポート

- 研究団体 鳥取県中部地区中学校英語教育研究会
- 研究テーマ 「即興性のある会話について
～教科書題材を元にした自分の考えや意見・感想を述べる場面の工夫～」
- 実施期日 平成31年1月31日（木）
- 実施場所 倉吉市立西中学校 1年
- アドバイザー 立命館大学 教育推進機構 教授 山岡憲史 先生
- 授業研究会を振り返って

本研究会のテーマ「即興性のある会話について」に迫るため、今回はリテリング(**retelling**)の指導を中心に据えて授業が展開された。教室の学習規律が確立され、教師の指示(クラスルームイングリッシュ)を聞いて生徒はきまりよく活動に参加していた。スモールトーク、多彩は音読練習、英語から日本語、日本語から英語への変換練習が十分になされ、スムーズにリテリングに移行でき、生徒は英語を用いて意欲的に表現しようと努めていた。

授業後の研究協議ではグループに分かれて活発な意見交換が行われた。協議後の山岡先生の指導助言の主な内容は以下通りである。

- ①スモールトークは継続して行う。生徒がおもしろいと感じる内容を話させる。答えがいつもきまっているようなものはやめた方がよい。
- ②本文の理解を日本語に訳したり、細かく文法チェックしたりすることは、これからは変えていかなければならない。英語を英語で理解していく授業への変換。
- ③即興性を求める授業展開が薦められている。教師が怖がらずにどんどんチャレンジしていく。
- ④教科書の内容を読んでも、どのようなことで生徒の自分の意見を引き出せるか考えるのは教師の仕事である。
- ⑤音読をする場合、その場面や状況に即した読み方(話し方)、場面の設定を意識させることで、より生き生きとした取り組みにすることができる。
- ⑥リテリングとは自分なりの方法で話すこと。誰の立場から話すのか、どう伝えればよりおもしろくなるか、正確に伝わるか、といったことを大切にする。
- ⑦聴いている側にコメントをさせてみることも必要である。